

中長期計画 2026年度～2031年度

基本方針：先進的な法人経営の持続と、地域共生社会の実現に向けた次世代型福祉モデルの確立

重点目標	基本戦略と主要な取り組み	新たな挑戦・目標
1.ご利用者様中心の支援の深化	自己決定と QOL の極大化 意思決定支援会議の継続・強化、実現困難事例の分析と新たな解決策の追求。	パーソナライズド・ウェルビーイング AIによる支援記録分析を活用し、個人の好みや習慣に合わせた未来志向の個別化支援計画を策定します。ご利用者様の「ウェルビーイング(幸福)」を極限まで高めることを目指します。ご利用者様一人ひとりの好み、習慣、潜在的な思いを深く掘り下げ、「生きがい」、「満足」、「感動」の実現に貢献します。
	安全管理の高度化 誤嚥防止対策など、リスクマネジメントの徹底。	データ駆動型リスクマネジメントの極大化 見守りシステムで蓄積したデータをAIで深層分析し、転倒・体調変化を予測するモデルを構築。事故リスクを最小限に抑える予知保全型ケアを実現します。
	生活・利用環境の整備 施設の保全、設備の更新、感染症対策を継続。	支援環境の快適性と衛生管理の徹底 ・施設の保全・設備更新計画に基づき、居住空間の快適性を高める改修を計画的に実施します。 ・データに基づいた感染症・防臭対策を徹底し、安心して衛生的な環境を維持します。
2. 地域共生社会のモデル構築	公益的な取り組みの発展と地域連携の強化 地域貢献事業、福祉避難所対応。	デジタル・ネイバーフッド戦略 DXで培ったノウハウや先進的な取り組みのオンライン・オフラインでの提供と、行政・他団体との連携をデジタルとアウトリーチ活動で強化します。
	情報発信の強化 SNS、施設公開の継続。	広報のデジタル戦略 ・ご利用者様のご家族様等との電子取引を推進し、情報共有時間の削減を図ります。 ・公開資料の作成において、AI要約を活用し「要点だけ」をすぐに理解できる形にすることで、情報の非対称性を解消し、ご利用者様、地域、行政への情報公開のスピードと公平性を高めます。
3. 職員の専門性とウェルビーイングの追求	人材確保と定着の持続 「プラチナ基準」を核とした労働環境の維持・発展。	全人的なウェルビーイング経営の確立 職員の「やりがい」と「幸福度」を数値化する指標(エンゲージメント・スコア)を効果的に高め、心理的安全性の高い職場を実現します。
		DXによる生産性向上と支援への再投資 モバイルデバイスを活用したバイタル・記録データのリアルタイム連携とデータ入力の音声入力対応や、AIの利活用による、会議資料・議事録作成等の事務作業の効率化を徹底。創出された時間を「人」にしかできない支援に再投資し、職員の専門性の向上と働きがいの創出を両立します。
		ワークライフバランスの更なる追求 家族介護(ケアラー)に関する福利厚生・相談体制を確立します。(法人の専門職による内部相談窓口の設置、外部提携サービスを活用した介護補助金・専門家相談の提供、法定を超える柔軟な介護休暇制度の導入)

	健康経営の継続と深化 職員と地域の健康増進施策の維持と強化。	ゼロ介助への挑戦 ノーリフティングケアの徹底を腰痛対策の核とし、移動移乗リフトや生活支援ロボット活用による「完全に物理的負担のない介護(ゼロ介助)」への移行を完了させ、職員の身体的負担を解消します。
		メンタルヘルス・リテラシーの向上 メンタルヘルス・リテラシー研修の全職員への実施を継続し、ストレス予防と早期対応の体制を強化します。
		地域連携型の健康アウトリーチ戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・体成分分析装置や健康関連機器の利用機会を地域の方に拡大するため、移動式健康増進ステーションとして地域の他団体イベントへ積極出展し、健康測定と啓発を継続します。 ・献血活動について、地域住民の参加を促すデジタル広報を強化し、社会貢献活動としての定着を図ります。
	体系的な人材育成の継続 「成長をデザインするキャリアパスと人材育成」を浸透させ、幹部養成の継続と、総合的な知識を有する人材の育成。	アジャイル型人材育成とDXコア人材の育成 ITに関心のある職員を「DX推進・情報セキュリティ担当者」に選任し、戦略立案やデータ分析を担うDXコア人材として育成します。
IV. 持続可能で透明性の高い法人経営	ガバナンス・コンプライアンスの徹底と強化 倫理観の醸成、内部監査、規程の整備、公益通報窓口の周知を継続。	デジタル・ガバナンスの確立 データ連携・利活用に特化したガバナンス体制を確立・強化し、情報セキュリティに関するインシデント発生件数ゼロを維持します。
	健全経営の強化 財務基盤強化、収益性の確保、積立金計画の策定・見直し、コスト意識の醸成を継続。	ESG/SDGs 経営の開示 SDGs への取り組みを更に具体化し、「環境(E)」、「社会(S)」、「ガバナンス(G)」の情報を統合報告書として作成・開示し、外部からの信頼(ソリディティ)を一層高めます。
	BCPの高度化とセキュリティ対策の徹底 大規模災害や情報セキュリティに対する安全対策。	事業継続計画(BCP)の運用と実践的検証の高度化 BCPについてフルクラウド基盤を活用してさらに高度化し、定期的な実践訓練を通じて、災害時にも揺るがない事業継続性を確保します。
		情報セキュリティ体制の継続的強化 最新のセキュリティ脅威に対応するため、職員教育と技術的対策を両層で継続的に強化します。
リーダーシップの発揮 経営者による強いリーダーシップの継続。	データ駆動型マネジメントの確立 複数のシステム間でシームレスなデータ連携基盤を構築し、経営指標のダッシュボード化率を100%にします。	